
結果

右腕左

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

結果

【Nコード】

N5801Z

【作者名】

右腕左

【あらすじ】

ひよんな事から家出をしてぶらつと立ち寄った廃墟で、女の子がどうしようもなく死んでいた。

(はい注目) pixiv重複投稿。

ひよんな事から家出をしてぶらつと立ち寄った廃墟で、女の子がどうしようもなく死んでいた。僕はグロイことがファシズムよりも嫌いなのであえて細かい描写は避けるけれど、本当に、どうしようもなく、死んでいた。この世にはどうしようもない事が溢れていると僕の母親らしき人が常々嘆いているけれど、これも、その一つなんだろう。どうしようもない事は本当にどうしようもない事で、そのどうしようもない事に何らかの感慨を抱く事ほど馬鹿らしいものは無いと、僕は心から思っている。放っておいたら何か巨大な力が僕を何処かに流してくれるのだから、好きなところへ流させておけばいい。僕を流すのは運命なのか自然なのかそれとも人の意志なのかは皆目分らないけれど、その流れに身を任せておけば、生き延びて行くことなど造作も無い。僕と同年代、中学生くらいに見えるこの女の子の結末は、その流れに無謀にも逆らってしまった結果なのだろう。ドンマイ、としか言いようがない。本当に、

「ドンマイ」

「キミモネ」

ふと気づいたら目の前に死体と同じ顔をした女の子が立っていて、僕の腕と限りなく良く似た二つの棒を手を持っていた。自分の物を確かめようとする、けれど女の子から視線を逸らす事は到底出来そうもないので、腕の方から視界に入って頂こうとしたのだけれどどうやら持ち上げる腕は無くなってしまった。同時に激痛が走る。しかし綺麗に取ってくれたからなのかどうなのかは知らないけれど、想像していたまでの痛みは無い。このくらいの痛みなら慣れたものだった。

「あーこの子私の妹ねー。あなたを助けたいのは山々なんだけどー。こればかりはどうしようもないかなー」

女の子はそう言った。二つ目の句点のあたりには僕の体は五体不

満足になっていたけれど、女の子は依然僕に対して話し続ける。

「だってお腹すいたし！。本当に、こればかりはどうしようもないよ」

そうか、なら仕方ないか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5801z/>

結果

2011年12月19日13時49分発行